

自家発828名、可搬形583名

内発協の専門技術者講習・試験

令和6年度の実施結果の概況

内発協では、11月29日に開催された自家用発電設備専門技術者審査委員会での審査結果に基づき、このほど、内発協会長の承認を得て『令和6年度専門技術者講習・試験』の新規合格者等が決定されました。ここに結果報告をします。

新規合格者は、自家用発電設備専門技術者（以下、自家発専門技術者）の受験者931名のうち、828名。一方、可搬形発電設備専門技術者（以下、可搬形

専門技術者）の受験者624名のうち、583名。両方を合わせた新規合格者の合計は1,411名となりました。

受験者数、合格者数をそれぞれ前年度実績と比較すると、自家発専門技術者については受験者数が5.3%増、合格者数は6.6%増。

可搬形専門技術者については受験者数が26%増加し、合格者数は25%の増加となりました。

なお、同日は、新規合格者と併せて、科目別受験合格者、業務区分追加受験合格者もそれぞれ決定されました。

今後のスケジュールについては12月20日以降、受験者全員に対して合否判定の結果通知書を発送し、合格者に対しては資格証も交付する予定です。

業務区分の組み合わせは7通り。

1. 装置部門（S）・据付工事部門（K）・保全部門（M）
2. 装置部門（S）・据付工事部門（K）
3. 装置部門（S）・保全部門（M）
4. 据付工事部門（K）・保全部門（M）
5. 装置部門（S）のみ
6. 据付工事部門（K）のみ
7. 保全部門（M）のみ

※各区分小数点四捨五入の為、合計は100%にならず。

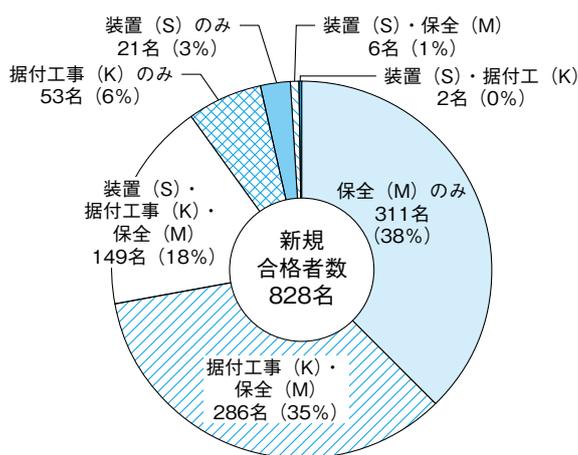


図1：自家発新規合格者が取得した業務区分の組み合わせ

令和6年度の新規合格者を決定

自家用発電設備専門技術者審査委員会

新規合格者の業務区分

自家発専門技術者の新規合格者が取得した『業務区分』について、その組み合わせをみると、装置部門（S）・据付工事部門（K）・保全部門（M）の全三部門のうち、「M」の一部門のみを取得した者が311名（38%）と最も多くを占めました。

次いで「K・M」の二部門を取得した者が286名（35%）。続いて「S・K・M」の三部門を取得した者が149名（18%）の順でした。

（図1参照）

前年度と順位に変動はなく、構成割合については「M」のみが前年度比7ポイント減、「K・M」が5ポイント増、『S・K・M』1ポイント増でした。

一方、可搬形専門技術者については、据付工事・保全部門（K・M）の二部門・一組の業務区分となります。

新規合格者の業種別

新規合格者を『業種別』にみると、自家発専門技術者においては「保守・修理業」の246名（30%）、「電気工事業」の239名（29%）、「製造業」の151名（18%）の順でした。

前年度と順位に変動はなく、割合について「保守・修理業」が前年度より8ポイント減、「電気工事業」は7ポイント増、「製造業」は1ポイント増でした。前述の業務区分において「M」のみ取得した者が7ポイント減少した結果に呼応した形となりました。

一方、可搬形専門技術者においては「土木工事業」の310名（53%）が圧倒的に多く、「建築工事業」の149名（26%）、「賃貸（リース・レンタル）業」の38名（7%）の順でした。

（図2参照）

（図3参照）

新規合格者の年代別

新規合格者を『年代別』にみると、自家発専門技術者では30代の280名（34%）、40代の209名（25%）、20代の204名（25%）の順でした。

合格者の平均年齢は38.4歳でした（前年度は39.3歳）。

一方、可搬形専門技術者においては、40代の213名（37%）、50代以上の156名（27%）、30代の144名（25%）、20代の70名（12%）の順でした。

（図5参照）

割合は40代が5ポイント増、50代以上は1ポイント増、30代は4ポイント減、20代は1ポイント減となり、50代以上と30代の順位が入れ替わりました。合格者の平均年齢は42.6歳（前年度は41.6歳）でした。

なお、自家用と可搬形を合わせた合格者の最年少者は21歳、最年長者は78歳でした。

（図4参照）

割合は30代が1ポイント増、40代が3ポイント減となりました。20代は3ポイント増、また50代以上は1ポイント減でした。

※各業種別小数点四捨五入の為、合計は100%にならず。

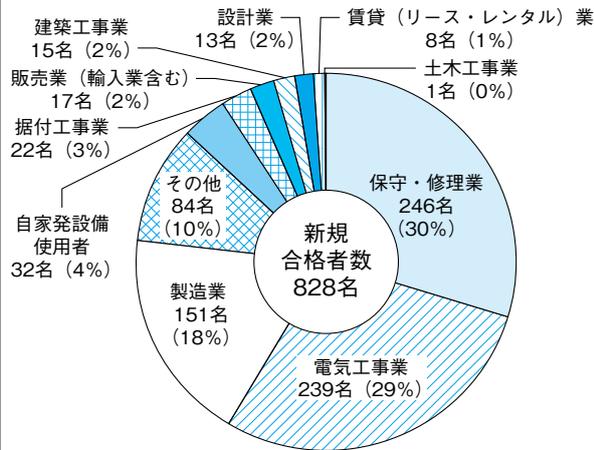


図2：
業種別にみた
自家発新規合格者数

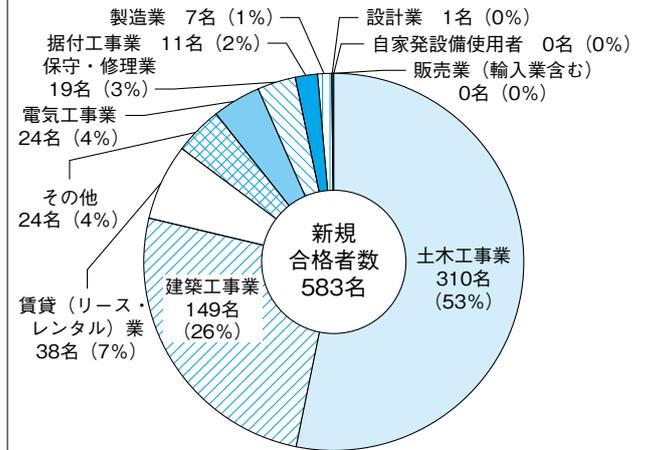


図3：
業種別にみた
可搬形新規合格者数

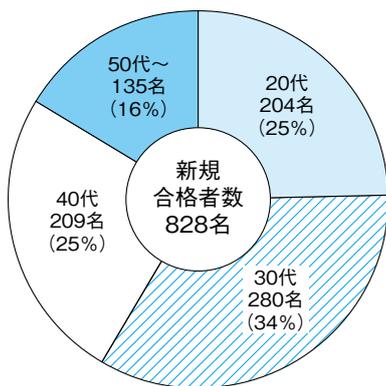


図4：
年代別にみた
自家発新規合格者数

※各年代小数点四捨五入の為、合計は100%にならず。

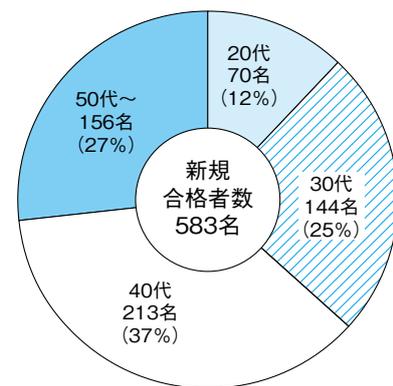


図5：
年代別にみた
可搬形新規合格者数

新規合格者の受験地区別

新規合格者を受験会場ごとに集計した『地区別』をみると、自家発専門技術者においては東京地区が最も多く289名（35%）、大阪地区の178名（21%）、

福岡地区の102名（12%）の順でした。

（図6参照）

一方、可搬形専門技術者についても合格者は東京地区が最も多く167名（29%）、次いで大阪地区の131名（23%）、名古屋地区の76名（13%）の順でした。

（図7参照）

科目別受験の新規合格者

新規講習・試験の開催とあわせて実施された『科目別受験』については58名が合格しました。

「科目別合格者」とは、受験科目の一部が合格点に達しなかったため、その年度に合格できなかった者が次年度に合格点に達しなかった科目を受験し、合格した者です。

合格者が取得した業務区分の組み合わせをみると「M」部門が27名（47%）と最も多くを占めました。

（図8参照）

「業務区分追加合格者」とは、専門技術資格保有者が新たな業務区分を追加する目的で受験し、合格した者です。

取得した業務区分をみると、「K」の一部門のみを取得した者が27名（60%）と最も多くを占めました。

（図9参照）

業務区分追加受験の新規合格者

『業務区分追加受験』については45名が合格しました。



令和6年12月吉日



合格おめでとうございます

